

第1回武蔵PMワークショップ速記録

日時：4月12日（金） 17：00より19：00

場所：武蔵工業大学1号館5階都市基盤多用室

出席者：

草柳俊二客員教授

五艘章非常勤講師

(株)日本設計・吉岡千之氏

フジタ・池田将明様

前田建設・勝俣 睦男氏

増田陳紀主任教授

小玉克己教授

皆川勝教授（将来構想委員会代表，教務委員）

1. 趣旨説明（増田主任，皆川）

2. 総括説明（草柳客員教授）

- 95年に開催したConstruction Management Seminarは英米から専門家を招聘した日本の大学としては初めての試みだった。
- Contractorの仕事が減ってゆくことは確実で，施工は減るが前後を含めた建設の枠が減るかは疑問。
- 建設マネジメント教育の充実と具体化方策について考えてゆきたい。
- Mission&Policyの部分が必要だ。あるじき，施工法のみ集中してしまった。Mission&Policyの部分を経済屋さんにとられてしまっている。
- 高知工大は土木+建築+経済が一体でマネジメント主体である。
- 大学院修士ではコンサルティング・エンジニアリング教育で，国際建設プロジェクト，環境論，LCA，国際協力論などからなる。
- 大学院博士課程では，10単位+論文だが，10単位は休暇中の集中講義で取得できるので，役所の人間にDr.をとる機会を与えることができる。

3. フリーディスカッション

草柳先生

- 武蔵の授業でも，学生は興味を持っている。学部生に何を教えるか？
- 施工とマネジメントを切り離してゆく方向が考えられる。

池田氏

- 海外のプラントエンジニアリングではエンジニアリング会社の下請けで contractor が施工をしている。

●

草柳先生

- ゼネコンは変わりつつある。
- 下請けをたたいて設けるのが今までのやり方だが、これを続けることはできない。
- 上の人間の考え方を変えることはできないので、新しい若い人をつれてくることになる。
- 下請けをきちんと管理できる contractor が生き残る。今までの人材では不十分で、マネジメントのできることが大切になる。
- ベクテル社は8割がマネジメントで2割が施工。金融部門も持っている。
- ホフティフは650億のアテネ空港に出資した。180億の初期コストの16%しか出していないが、発注者になっている。
- 英語は必須のツールである。

五艘先生

- 素養・適正を養うことが大学に求められる。昔はクラブ活動で養ったが、いまはどうか。
- 千葉のPFI事業では、管理のための会社を作ったが、文系の人間が理系の人間を使っている。
- 建設コンサルタント協会の体制ではCMができるのは1~2社というのが現実の姿である。設計士としてのみ生きてきた技術者に大きな現場の管理はできないだろう。
- 設計・施工など多様な能力を持っていなければPMはできない。
- Contractorはツールを持っている。
- 技術者の将来像は、しっかりした技術を身につけることだ。
- 施工技術を大切にすると、そうでない会社がある。スーパーゼネコンの空洞化は早く進展している。

草柳先生

- ゼネコンの守備範囲が広がってゆく。多様化した進路を考えてゆくのがよい。

増田先生

- 現場に行ける人を contractor は欲しいのでは？

草柳先生

- OJT (On the Job Training) という意味と理解すればよいか。

小玉先生

- 現場に行きたいという若者が少なくなっている。

池田氏

- 大学によって分けている

池田氏

- 官庁は、自分でできるが人手不足だから Manager を使うという考え。一人2000万円では話にならない。

草柳先生

- 現場にいけるとともに、 $+\alpha$ がないと採用されない。

五艘先生

- 下水道公団，鉄建公団，道路公団などは，設計・施工・管理・交渉などの能力を有している。民営化されると民業を圧迫する。
- 40歳を過ぎた技術者がマネージャとなる。contractor, consultant, 発注者，公団など進路は多様なので，大学ではその素養を与えることになる。

草柳先生

- 倫理教育もこのワークショップの範囲。
- プロセスを明確にして，建設の全体像を考えることが大切。
- これだけのメンバーを集めるのは容易でない。教育プログラムを作ることは容易だと思う。
- 修士をベースにプログラムを作り，それを学部におろせばよい。

五艘先生

- 学生の進路がどこにあるか，人材像を持つことが大切だろう。

草柳先生

- マネージャーマインドを持った学生を育てたい。

五艘先生

- 現状のコンサルタントからマネージャは育たない。能力があっても身につける場がない。国土交通省が土俵を作るべきだ。

草柳先生

- コンサルタントは40年間なにをやってきたか。

(録音をとっていなかったため，不十分な記録となりました)